

アコーディオン150年祭協賛

第11回秋のアコーディオン

フェスティバル開催の御案内

アコーディオンと云う楽器、日本では案外認識されて居なくて、ギターと一諸の流しや、のど自慢の伴奏ぐらいにしか思われていないのじゃないか？そこでアコーディオンが如何にスバラシイ楽器であるか、と云うことを多くの人々に識っていただくために、コンサートを催します。

藤山一郎、築地容子の両氏には唄の伴奏の中で、アコーディオンが如何に効果ある演出が出来るか、御期待して下さい。

横森良造氏は、いつものテレビの時には、ほとんど聞かせてもらえない様なジャズつぽいソロ。

岡田金司氏は、アコーディオンで、こんなキメのこまかい表現が出来るのか、と思われる様なクラシックのソロ。

イギリスで行なわれた世界のコンテストで三位になった和田道雄君の、アメリカナイズされたジャズアコ。

吉川肇氏は、吉川氏ひきいるニューダーリンが、すばらしいフレンチポップスを聞かせてくれます。

美しい20才前後のお嬢さんばかりの、フラワーエンゼルや、ピヤホールで活躍中の巽憲司(年に1度はドイツへ勉強に行くと言うベテラン)

吉田起、杉村寿治の3氏によるピヤソング。この時、ビールのサービスあるかも？左党は見逃す事が出来ない。

ロス・アセス・デ・オーサカ 本場アルゼンチンのタンゴを。バンドネオンは、アコーディオンの姉妹楽器だから是非と云うことで参加して戴きました。

吉田親家 常任理事、関西合唱アコ教室

アンサンブル、レネット。

この3氏のややおかたい曲目のトリオはAAAならではのメンバーです。

ロス・アセス・デ・オーサカは最近では6月21日に御堂会館で公演したことは御存知と思いますが、リーダーの舩松さんはお医者さん、プエノスアイレスを訪ね本場のタンゴメンと交流する数少ないタンゴグループです。

アルゼンチンよりタンゴの新譜を入手したり、山口百恵の「いい日旅立ち」をタンゴで演奏する等、ユニークな存在です。メンバーはバイオリン田所・葛川、ピアノ岡町、ベース村上のみなさんです。

アコーディオンらしき楽器が出来て150年。日本に商業ベースで輸入される様になって100年。慶応3年5月、伊勢国大宮司手船、益吉丸庄吉が海上安全のため。も一つは嘉永2年、武運長久のため、松江家臣、朝日千助が美保神社に奉納されたものが残っております。

めずらしい楽器の蒐集家としては名古屋のアコーディオンクラブ会長尾上隆治氏記録(AAA本号に一部掲載)とかアコーディオンレコードの豊富なコレクションは大阪の吉田善吉氏とか(本会員)他多くさんの方が居られます。

当日の司会は軽妙なシャレとテンポの早い司会で有名な浜村淳さんが担当します。

浜村淳さんはなかなかのコレ屋で納得の行くまでリーハサルを徹底する人で今回の150年祭協賛AAAアコ・フェスティバルでアコーディオン通になることでしょ。

